

学習課題

自分の感情と理由を伝えよう！

本単元で育成する資質・能力

(学校) 主体性、コミュニケーション能力

1 日 時 令和7年10月17日(金) 13:30~14:20

2 学 年 第2学年2組 (合計 39 名)

3 場 所 新館2F 2-2 教室

4 単元について

○ 単元観

本単元は、学習指導要領(5)書くことイ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。」ことをねらいとし、設定した。

本単元は、アナが母親のオリビアに紹介されたユニバーサルデザインフェアに参加し、それを経てユニバーサルデザインについて調べたことを発表している場面が描かれている。また、エディが読んでユニバーサルデザインの歴史に関する本の内容も書かれている。「ユニバーサルデザインの目的とは何か」「ユニバーサルデザインが使われている事例」を本文を通して知ったり、考えたりすることで、実際に日比崎中学校で取り入れたいユニバーサルデザインを考える機会になる単元である。

言語材料としては、疑問詞+to+動詞の原形と主語+動詞+(人)+疑問詞+to+動詞の原形、主語+be+動詞+形容詞+thatを含む文が扱われている。Unit1で動詞+(人)+(物)を、Unit3で不定詞を扱っている。それらの文法の復習をしながら、この単元で出てくる新出の文法を扱う。

本単元を通して、ユニバーサルデザインについて考え、日比崎中学校を生徒、先生、来客者などすべての人にとって過ごしやすい場所にするために取り入れたいユニバーサルデザインについてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

○ 生徒観

本学級では、英語の学習に対して意欲的に取り組むことができる。実際、7月19日実施した授業アンケートで「英語の授業が楽しい。」「授業を通して英語が好きになった。」という質問に対して肯定的に解答している生徒は82%いた。しかし、標準学力調査の結果から3文以上の英作文の問題において「春休みにしたことについて、まとまった内容で紹介する英文を、相手に伝わるように書いている。」という観点では全国正答率が42.3%であるのに対し、本校では、正答率が38.5%と全国平均を下回っている。このことからまとまりのある文章を書くことのできる生徒が少ないと分析した。

また、7月上旬に”My Dream”というテーマで、将来の夢やしたいこと、その理由、そのためにこれから頑張ることの3点についてまとまりのある文章を書かせる活動を行った。その時の生徒の作品の誤答分析を行い、多くの生徒に共通する間違いが2点あった。1つ目は、不定詞の後の動詞が抜けていることである。It is important to English. や I want to soccer player. のように書く生徒がいた。2つ目は、接続詞 that を使うときに主語と動詞が抜けていることである。I think that practice soccer seriously. のように書く生徒がいた。このことから英文を書くときに「誰が」「どうする」「なにを」の順が基本であるということと、本時では特に接続詞 that を使う時はその直後に主語と動詞が必要であるということを伝える必要がある。

○ 指導観

生徒観を踏まえ、本単元では以下の点に留意し、指導を行う。

① 「書く」活動における語彙・表現力の育成

・書く活動に使うことのできる語彙や表現力を高めるために、「話す」「読む」「聞く」活動を行い、音声に慣れ親しませたり、内容を整理させたりした後に書かせる。また、事実や自分の考え、気持ちなどを表す語彙や表現が出てきた場合には、Expression sheet にまとめ、「書く」時に使用できる表現の引き出しを増やす指導を行う。

②まとまりのある文章を書く力の育成

・まとまりのある文章を書くことができるようにするために、本文を読み取るときに、各段落のおおまかな内容を捉え、文章構成の特徴を捉える指導を行う。主に、Read and Think 1,2 において段落ごとに題名をつけたり、年号や接続詞に着目して本文を読んだりする活動を行う。

③事実や自分の考え、気持ちなどを書く力の育成

・事実や自分の考え、気持ちなどを書く力を育成するために、音声に慣れ親しませる活動を行う。帯活動で Small Talk を行った後、話した内容を書く活動を行う。綴りではなく、語順の正確さを重視して行う。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 （自己を認識する力、 自分の人生を選択する力）	コミュニケーション能力 （表現する力）		
レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	
レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。	
レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	

レベル 4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、（大人の力も借りながら）自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。
----------	--	----------------------------------

6 単元目標

日比崎中学校を生徒、先生、来客者などすべての人にとって過ごしやすい場所にするために取り入れたいユニバーサルデザインについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いたりすることができる。

〈ゴールとする生徒の姿〉

I think that our school should introduce information board in English. It is easy for the guests to know information. ALTs can understand rules and manner too. I am sure that they will be happy. It will be difficult to make English board. So I will use translation machine.

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞＋to＋動詞の原形と主語＋動詞＋（人）＋疑問詞＋to＋動詞の原形、主語＋be動詞＋形容詞＋thatを用いた文の特徴やきまりを理解している。 ・ユニバーサルデザインについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くという技能を身に付けている。 	<p>日比崎中学校を生徒、先生、来客者などすべての人にとって過ごしやすい場所にするために取り入れたいユニバーサルデザインについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。</p>	<p>日比崎中学校を生徒、先生、来客者などすべての人にとって過ごしやすい場所にするために取り入れたいユニバーサルデザインについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。</p>

8 指導計画（全10時間）

教科・領域の本質的な問い

相手に分かりやすく事実や自分の考えを伝えるためには何が必要だろうか。

時間	学習課題 ねらい	重点	記録	生徒の行動・思考	評価 〔評価方法〕
	指導内容				
What design is good for everyone?					
1	【Part 1】 学習課題： イベントのパンフレットを完成させよ！	知		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークなどを通してユニバーサルデザインとはどのようなものかということを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞を使って必要な情報をたずねたり、

	<p>ねらい： 疑問詞を使って、必要な情報を相手にたずねたり、答えたりすることができる①</p> <p>■単元の目標を知り、学習の見通しを持つ。 ■疑問詞+to+動詞の原形の文法の特徴やきまりを理解する。 ①実際にあるユニバーサルデザインを紹介することを通して、単元のゴールを確認し、今後の学習への見通しを持たせる。 ②疑問詞+to+動詞の原形の文法を使ったまとまりのある文章を聞かせる。 ③練習を通して口慣らしを行う。 ④自己表現を行う。</p>		<p>・「聞く」「話す」活動を通して不定詞が使われていることに気づく。</p>	<p>答えている。</p>
<p>単元を貫く問い ALT に日比崎中学校をすべての人にとって過ごしやすい場所にするために取り入れたいユニバーサルデザインについてまとまりのある文章を書くためにはどのようなことが必要だろうか。</p>				
2	<p>【Part 1】</p> <p>学習課題： Universal Design Fair でできることとは!?</p> <p>ねらい： 本文を読み、必要な情報を読み取ることができる。</p> <p>■本文の内容を理解し、ユニバーサルデザインに対する自分の考えを伝え合う。 ①本文を聞かせる。 ②イベントに関する本文を読み、必要な情報を読みとらせる。 ③ユニバーサルデザインに対する考えを英語で表現させ、Expression sheet に今後使えそうな表現を記入させる。</p>	知	<p>・キーワードに着目して文章を読むことを通して、必要な情報を読み取ることができることに気づく。</p>	<p>・イベントの必要な情報を読み取っている。</p>
3	<p>【Part2】</p> <p>学習課題： 困っている海外の人を助けよ!</p> <p>ねらい： 疑問詞を使って、必要な情報を相手にたずねたり、答えたりすることができる②</p> <p>■主語+動詞+（人）+疑問詞+to+動詞の原形の文法の特徴やきまりを理解する。 ①主語+動詞+（人）+疑問詞+to+動詞の原形の文法を使ったまとまりのある文章を聞かせる。 ②練習を通して口慣らしを行う。 ③困っている海外の人に必要な情報を伝える活動を通して、主語+動詞+</p>	知	<p>・Unit1 で学習した動詞+（人）+（もの）の文法とこの単元の1時間目で扱った疑問詞+to+動詞の原形の文法復習を行うことを通して、2つの文法が組み合わせられてきた文構造であることに気づく。</p>	<p>・主語+動詞+（人）+疑問詞+to+動詞の原形の文法を使って必要な情報をたずねたり、答えたりしている。</p>

	(人) + 疑問詞 + to + 動詞の原形の文法を習得させる。				
4	<p>【Part2】</p> <p>学習課題：どこがユニバーサルデザインになっている？！</p> <p>ねらい：本文の概要を読み取ることができる。</p> <p>■本文の内容を理解する。 ①本文を聞き、空所を埋める活動を通して、音の連結や脱落などに注目させる。 ②本文を読み、キーワードに着目しながら必要な情報を読み取らせる。</p>	思		<p>・「聞く」活動を通して概要を把握し、「読む」活動を通して要点を把握する。</p>	ユニバーサルデザイン商品の目的を読み取ることができている。
5	<p>【本時 Read and Think 1】</p> <p>学習課題：自分の感情と理由を伝えよう！</p> <p>ねらい：that を使って、夏休みの思い出を4文以上で相手に伝えることができる。</p> <p>■主語 + be 動詞 + 形容詞 + that を用いた文の特徴やきまりを理解する。 ①主語 + be 動詞 + 形容詞 + that の文法を使ったまとまりのある文章を聞かせる。 ②言語活動を通して音声に慣れ親しませる。 ③自己表現を行わせる。</p>	知		<p>・不定詞の副詞的用法と比較する活動を通して、主語の有無などの違いに気づく。</p>	夏休みの思い出について、4文以上で相手に伝えている。
6	<p>【Read and Think 1】</p> <p>学習課題：アナが各段落で伝えたいことは何だろう？</p> <p>ねらい：本文の概要を理解することができる。</p> <p>■本文の概要を読み取る。 ①本文を聞かせる。 ②各段落の大まかな内容を読み取り、各段落に題名をつけさせる。 ③本文を読み、2つのユニバーサルデザインの特徴を読み取らせる。</p>	思		<p>・段落ごとに題名をつけることを通して、段落ごとの関係や文章構成に気づく。</p>	文章構成を意識しながらユニバーサルデザインの特徴を読みとっている。

7	<p>【Read and Think 2】</p> <p>学習課題：どうやって生まれた！？ユニバーサルデザイン</p> <p>ねらい：本文の概要を読み取ることができる。</p> <p>■本文の概要を捉える。 ①本文を聞く。 ②各段落の概要を読み取り、題名をつける。 ③ユニバーサルデザインができるまでの過程を時系列順に並べる。</p>	思		<p>・5W1H（特に「いつ」を表す年号に注目する）や接続詞のはたらきに着目しながら読むことを通してユニバーサルデザインができるまでの歴史を理解する。</p>	<p>ユニバーサルデザインができるまでの過程を時系列に沿って読みとることができる。</p>
8	<p>【Unit Activity】</p> <p>学習課題：本当にこれで「みんな」が過ごしやすい？</p> <p>ねらい：自分の意見や考えを相手に伝えることができる。</p> <p>■問題点と改善案を相手に伝える。 ①段差のある場所や日本語のみの看板などを見せて、「誰にとって」「どのような部分が問題か」ということを話させる。 ②「問題を解決するためのユニバーサルデザイン」を話させる。 ③ホワイトボードを用いて共有を行う。 ④「問題点」「改善策」「良さ」を伝える時に使うことのできる表現を練習させる。</p>	態		<p>ペアやグループ活動を通して問題点や改善策を考え、相手に伝える。また、「話す」ことを通して、英語で表現できる部分と表現できることを明確にする。</p>	<p>「誰にとって」「どのような部分が問題か」「問題を解決するためのユニバーサルデザイン」を相手に伝えようとしている。</p>
9	<p>【Unit Activity】</p> <p>学習課題：「みんな」が過ごしやすくなるユニバーサルデザインとは？①</p> <p>ねらい：Coach Chris にユニバーサルデザインについてまとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>■ユニバーサルデザインについてまとまりのある文章を書く。 ①例文を読み、各段落に題名をつけさせ、文章構成を意識させる。 ②前時で話した内容をもとに、まとまりのある文章を書かせる。</p>	態		<p>・「導入—根拠や具体—主題の言い換えや要約」という文章構成を意識しながら書く。 ・Expression sheet を参照しながら「誰が」「どうする」「なにを」を基本としながら書く。</p>	<p>Coach Chris にユニバーサルデザインについてまとまりのある文章を書こうとしている。</p>
10	<p>【Unit Activity】</p> <p>学習課題：「みんな」が過ごしやすくなるユニバーサルデザインとは？②</p>	思	○	<p>・グループ活動を通して、文章構成は正しいか、正確に書けているか、相手にわかりやすく</p>	<p>Coach Chris にユニバーサルデザインにつ</p>

<p>ねらい：相手にわかりやすく「問題点」「改善策」「良さ」を書くことができる。</p> <p>■相手にわかりやすく、まとまりのある文章を書く。</p> <p>①4人グループの中で自分が書いた「問題点」「改善策」「良さ」について読み合わせる。</p> <p>②よかった点やわかりにくかった点について共有させる。</p> <p>③修正させる。</p>		<p>書けているか、考えながら再考する。</p>	<p>いて相手にわかりやすい、まとまりのある文章を書けている。</p> <p>[ワークシート]</p>
--	--	--------------------------	---

9 本時の展開

(1) 本時の目標

主語+be 動詞+形容詞+that を用いた文の特徴やきまりを理解する活動を通して、夏休みの思い出を4文以上で相手に伝えることができる。

(2) 本時の評価規準と生徒記述の例

夏休みの思い出を4文以上で相手に伝えることができる。

【知識・技能】

生徒の発話例

- I am going to talk about my summer vacation. I like sweets very much. I was glad that I ate ice cream. I ate strawberry. It was delicious.
- I want to talk about my summer vacation. I like Carp very much. I went to Matsuda Stadium. I was excited that I watched the baseball game. Carp won the game.

(3) 準備物

- ワークシート・スライド・クロムブック

(4) 本時の流れ（5時間目／全10時間）

過程	<input type="checkbox"/> 学習活動 教師と生徒のやりとり	指導上の留意事項 (○) ・予想される生徒の反応 (・)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 【評価方法】
1 復習を行う。 [10分]			

<p>導入</p>	<p>□帯活動を行う。</p> <p>1. Small Talk 2. New Words</p> <p>□学習の見通しを持つ。</p> <p>教師 What is Unit Goal? 生徒 Coach Cris に「みんな」が過ごしやすくなるユニバーサルデザインについて自分の考えを書くことができる。</p> <p>教師 That's right. 今日は文章を書く時に「まとめ」の部分で使うことができる表現を学習していきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題</p> <p>自分の感情と理由を伝えよう！</p> <p>ねらい</p> <p>that を使って、夏休みの思い出を4文以上で相手に伝えることができる。</p> </div> <p>□既習文法の復習を行う</p> <p>教師 Last month was my birthday. My friends gave me new sneakers. It has black and white. I was glad to get a birthday present. Aさん、When is your birthday? 生徒 A My birthday is October first. 教師 Did you get some birthday presents? 生徒 A Yes, I did. 教師 What did you get? 生徒 A Game 教師 Oh, you got a game. How did you feel? 生徒 A Happy. 教師 So, you can say "I was happy to get a new game." 生徒 A I was happy to get a new game. 教師 Very good. 先生は、気持ちを表す表現は何を使っていた？ 生徒 glad 嬉しい 教師 Why glad?</p>	<p>○Small Talk で話した内容を1分間で書く活動を行うことで、コミュニケーションを支える知識・技能を定着させる。</p> <p>○Unit2,3 で学習したことを復習することで、本時で学習する文法と比較することができるようにする。</p>	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">導入の工夫</div>
-----------	--	---	---

	<p>生徒 to get a birthday present 誕生日プレゼントをもらったから</p> <p>教師 Good. to の後ろの動詞はどんな形？過去形？</p> <p>生徒 原型 元の形</p> <p>教師 That's right. Repeat after me. "I was glad to get a birthday present."</p> <p>生徒 "I was glad to get a birthday present."</p> <p>教師 Then, please make three sentences with your partner. "I was glad to get~." I'll give you two minutes. (2分経過)</p> <p>教師 Let's share. Aさん, Please tell us one sentence.</p> <p>生徒 A I was glad to get money.</p> <p>教師 Nice. Did you buy something like new bag, DVD, clothes?</p> <p>生徒 A I bought snacks.</p> <p>教師 Oh, that's nice! Everyone, repeat after me. "I was glad to get money."</p> <p>生徒 "I was glad to get money."</p>	<p>○不定詞の間違えやすい部分を年間を通して何度も伝えることで、知識を定着させる。</p>	
2 新出文法のインプットを行う。[15分]			
<p>展開・前半</p>	<p>□スライドを使って新出文法の導入を行う</p> <p>教師 Do you remember English day? I want to talk about it. Look at this picture. Did you enjoy English Day?</p> <p>生徒 Yes. So so.</p> <p>教師 I was glad, happy. Why? Look at students' faces. They are smile. So I can say "<i>I was glad that you enjoyed English day.</i>" Look at next picture. Did you join Tie-Dye?</p> <p>生徒 該当者は挙手をする</p>	<p>○写真や英文を見せながら、まとまりのある英文を聞かせることによって、文法の意味や既習文法との使い方の違いに気づかせる。</p> <p>○新出文法事項の部分はゆっくり、はっきり、繰り返して発音することで、音声に慣れ親しませる。</p>	

教師 I was excited. Why? Because you made original T- shirts. Bさん, What color did you use?

生徒 B I used blue and green.

教師 That's cool! You can say "I was excited that you made original T- shirts." Look at next picture.

I was surprised. Why? Because you asked questions to ALTs. Did you ask questions to ALTs? For example, "Can you help me?" "What food do you like?"

生徒 該当者は挙手をする

教師 Very good! So I can say "I was surprised that you asked questions to ALTs."

今、3枚の写真を見せて話したけど、その中で気持ちを表す表現は何を使っていた?

生徒 surprised

驚いた

glad

(スライドに3つの新出文法を提示する。)

教師 Good. Please read the sentences with your partner.

生徒 "I was surprised that you asked questions to ALTs. "I was exci,,,"なんて言うん?

教師 Let's practice new grammar. Repeat after me.

(3つの文の発音練習を行う。)

教師 Were you surprised at something on English day? Please tell your partner, "I was surprised that ~." If it's difficult, Japanese is okay. But try English.

生徒 I was surprised that ジェスチャーでも伝わったこと.

教師 Cさん, what were you surprised at?

生徒 D I was surprised that ジェスチャーでも伝わったこと.

教師 Everyone, how do you say ジェスチャーでも伝わったこと in English?

○発音を何度もさせることで、音声に慣れ親しませる。

○意味の区切りで発音練習することで、チャンクを意識することができるようにする。

○質問の内容を理解することができるように、TV に表現を映し出す。

<p>生徒 use gestures,,</p> <p>教師 You can say “I used gestures and ALT understood. ” One more try. Cさん</p> <p>生徒 C I was surprised that I used gestures and ALT understood.</p> <p>教師 Perfect. Repeat after me. “I was surprised that I used gestures and ALT understood.”</p> <p>生徒 “I was surprised that I used gestures and ALT understood.” (上記と同様に以下の質問を行う。 ・What were you excited on English day? ・What were you glad on English day?)</p> <p><input type="checkbox"/>新出文法の動画を見る</p> <p>教師 Please look at TV. Now, you will watch a grammar video. So please take notes on your worksheet.</p> <p>(動画視聴)</p> <p>教師 “I was glad to get a birthday present.” “I was glad that you enjoyed English Day.” What’s the difference?違いはなんだろう? Please talk with your friends.</p> <p>生徒 thatがあるか、ないか 主語が2個ある</p> <p>教師 Good. 感情の主語と感情の原因の主語が異なるとき、つまり、surprised になったのは、「I,私」だけど、surprised にさせたのは「you,あなた」のような場合は that を使って表現できます。</p>	<p>○既習事項 I think that～と関連付けることで、新出文法が既習事項の文法と基本的な形は一緒であるということを理解させる。</p> <p>○既習文法と関連づけ、2つの文法を比較することで、新出文法には主語が2個あるということに気づかせる。</p> <p>○動画で理解することができなかった部分をフォローするために、文法のポイントを板書する。</p>	
3 新出文法のアウトプットを行う。 [20分]		
<p>展開・後半</p> <p><input type="checkbox"/>感情を固定し、感情の原因を英語で表現する。</p> <p>教師 Now, I will talk about my happy news. I was glad that I went shopping with my friends. I bought a wallet. It was white and beautiful. How about you? Please tell your partner about two happy news,嬉しかったこと</p>	<p>○今回は文の構成に慣れ親しませることに重点を置く。混乱を防ぐため、that 以下の主語はIに統一している。</p>	

生徒 D I was glad that I get money.
I was glad that I play video games. , , ,

教師 D さん、Please share your happy news.

生徒 D I was glad that I get money.

教師 Nice, you were happy that you got money. What do you want to buy?

生徒 Game

教師 Oh, you want to buy games, cool. Everyone, next, please say happy news with two sentences. Let's tell your partner, one more time.

□学習したことを踏まえて自己表現を行う

教師 Coach Chris wants to know about your summer vacation. What did you enjoy? Please make three sentences. For example, I want to talk about my summer vacation. I enjoyed canoeing in Innoshima. I was glad that a staff member taught me canoe. (1文2回ずつゆっくり、はっきり発音する) I'll give you two minutes, so please take notes on your worksheet.

(2分経過)

教師 Please make 縦 pair. Students in front, please tell your summer vacation first. If you finish, please sit down and check the grammar with your partner.

Ready go!

生徒 E I want to talk about my summer vacation. I like game. I was excited that I can play games this weekend.

生徒 F I want to talk about my summer vacation. I like sweets. I was glad that I ate ice cream.

教師 E さん、please tell your summer vacation. Everyone, listen carefully.

生徒 E I want to talk about my summer vacation. I like game. I was excited that I can play games this weekend.

○ペアを変えながら複数回行うことで、音声に慣れ親しませる。

○目的・場面・状況を設定することで生徒が自己表現を行うことができるようにする。

○マッピングをさせることで情報を整理することができるようにする。

○様々な生徒同士で交流することで、新たな発見や学びを促す。

教師 Nice memory. What kind of games do you like?

生徒 E Pokemon.

教師 You can say " I li,,,,"

生徒 E I like Pokemon.

教師 Good. Now I will give you two more minutes. So please make four sentences. For example, I want to talk about my summer vacation. I enjoyed canoeing in Innoshima. I was glad that a staff member taught me canoe. I ate hassaku cake. If you don't know English words, you can check with your chrome book.
(2分経過)

Now, please make 横 pair. Students in right side, please tell your summer vacation first. Ready go!

教師 Let's share your summer vacation. Students in this line, please tell your feeling to the classmates. Everyone, listen carefully.

生徒 E I want to talk about my summer vacation. I like game. I was excited that I can play games this weekend. I like Pokemon.

生徒 F I want to talk my summer vacation. I was glad that I eat ice cream. I like sweets. I eat strawberry.

教師 Good!

○相手が理解できる程度の間違いは直接指摘しないことで(正確さよりも流暢さを重視する)、生徒が失敗を恐れずに活動できるようにする。

○数人にあてることで、間違いやすい部分を共有したり、表現の仕方がわからなかった生徒が参考にすることができるようにする。

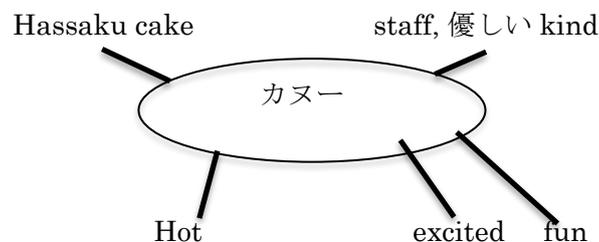
○場合によっては、質問を1つ生徒にすることで、3文しか言えなかった生徒が4文言えたり、5文でいうことができるようにする。

夏休みの思い出について相手に4分以上で伝えている。

【知識・技能】

〈スライド〉 Today's goal: that を使って、夏休みの思い出を4文以上で相手に伝えることができる。

① Take notes about your summer vacation



② Students in front, please tell your summer vacation first.

③ If you finish, please sit down and check the grammar with your partner.

④ Students in right side, please tell your summer vacation first.

⑤ If you finish, please sit down and check the grammar with your partner.

4 振り返りを行う。 [5分]			
ま と め ・ 終 末	□振り返りに今日の授業で学んだこと や難しかったことなどを記入し、振り返りを行う。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>振り返り記入例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情と理由を表す表現は、不定詞だけではなく that を使って表せることが分かった。 ・夏休みの思い出について4文で言えた。1言えなかった。 </div>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

尺度 (評点・レベル)	評価規準
B (おおむね満足できる)	感情と感情の原因を that を用いて表現している。
C (努力を要する)	感情と感情の原因を that を用いて表現していない。

(5) 板書計画

<p>単元 課題 ねらい</p> <p> I was glad (to get a birthday present.) I was glad 【that you enjoyed English Day.】 I think 【that English is interesting.】 </p> <p style="margin-left: 40px;"> I was 感情 感情の原因 glad 【that you enjoyed English day.】 excited surprised </p> <p>※感情と感情の原因の主語が異なるときに使える！</p>	<p>マッピングの図</p>
---	----------------